

道德教育の質の向上を図る
カリキュラム・マネジメントの在り方

Way of Curriculum Management to Improve the Quality of Moral Education

杉 浦 勉 二 宮 孝 行
Tsutomu SUGIURA Takayuki NINOMIYA

北翔大学教育文化学部研究紀要
第4号 2019

道徳教育の質の向上を図る カリキュラム・マネジメントの在り方

Way of Curriculum Management to Improve the Quality of Moral Education

杉 浦 勉 二 宮 孝 行
Tsutomu SUGIURA Takayuki NINOMIYA

概要

本稿の目的は、教育課程を中心に据えて、組織的・計画的に各学校の教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントに関して、道徳教育の視点から考察し、道徳教育の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの在り方を明らかにすることである。カリキュラム・マネジメントにおいて、PDCAサイクルの確立が必要である。そのためには、どのような目的や目標を設定するのかということと、その目的や目標を達成するための方針や手立てを構想することが重要である。なぜなら、それを下実践し、評価・改善へとつなげることが、PDCAサイクルの実現を可能にするからである。道徳教育の目標を設定し、方針や手立てを示す計画案として、「全体計画」と「全体計画別葉」がある。「全体計画」や「全体計画別葉」の活用を図ることで、学校の教育活動全体で行う道徳教育の展開を充実させる効果があるとともに、道徳教育の質の向上につなげることが可能になる。さらに、今年度から小学校において先行実施された“特別の教科 道徳”（以下、「道徳科」）を要として、補充・深化・統合を図った道徳教育の展開についての実現を図ることも可能になる。

キーワード：全体計画、全体計画別葉、補充・深化・統合

I 研究の目的

平成29年3月31日に学校教育法施行規則の改正とともに、幼稚園、小学校、中学校の学習指導要領等の改訂告示が公示された。全面実施に関しては、幼稚園においては既に今年度より行われおり、小学校においては平成32年度より、中学校においては平成33年度より行われる。今回の改訂では、基本方針として「社会に開かれた教育課程」がキーワードとして挙げられるとともに、各学校において教育課程を軸に教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの推進が求められている。つまり、学習効果の最大化を図る「カリキュラム・マネジメント」の実現が、各学校において喫緊の学校課題に位置付けられているといえる。

また、「特別の教科 道徳」（以下、「道徳科」）については、今年度平成30年4月1日から小学校で先行実施され、各学校において教科用図書を活用した「道徳科」の授業実践が既に行われているという現状である。現在の各学校の状況を予測すると、道徳科1時間の授業をどのように実践していくべきかという授業改善への意識を強くもつ教職員が多いのではないだろうか。このような授業改善への意識をもつことに関して異論はないが、そもそも道徳教育は、学校の教育活動全体で行うものであり、その中で道徳科が要として、他教科、他領域との補充・深化・統合を図り、道徳性を養うことが求められている。ここで重視すべきことは、道徳科1時間の授業改善への意識も重要であるが、道徳教育を学校の教育活動全体でどのように展開し、充実を図っていくのかという意識をもつことである。つまり、道徳教育の充実が道徳科の授業実践の充実につながると言っても過言ではない。道徳教育における本質的な部分を理解し、道徳教育を展開することこそ、道徳科への授業改善につながるといえる。

そこで、本稿では、教育課程を中心に据えて、組織的・計画的に各学校の教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントに関して、道徳教育の視点から考察し、道徳教育の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの在り方を明らかにすることを目的とする。具体的には、カリキュラム・マネジメントとは何かを明らかにした上で、道徳教育における「全体計画」や「全体計画別業」の活用について考察し、道徳教育におけるカリキュラム・マネジメントの実現につなげていくことを目指したいと考える。

なお、本稿では、筆者が教育実践経験をもつ初等教育の立場から論じることとする。

Ⅱ 全体計画の作成

1 カリキュラム・マネジメントとは

今回の学習指導要領改訂のキーワードとして、「カリキュラム・マネジメント」が示された。カリキュラム・マネジメントの定義として、「小学校学習指導要領解説総則編」に示された三つの側面¹を以下の表1にまとめる。

表1 カリキュラム・マネジメントの定義として示された三つの側面

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと ・教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと ・教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと |
|--|

カリキュラム・マネジメントを効果的に進めるためには、どのような目的や目標を設定し、教育活動の質の向上を図っていくのかということを明確にすることが重要である。

2 全体計画の意義

道徳教育においても、目的や目標の設定が重要である。そのために、各学校の校長の方針の下に、道徳教育推進教師が中心となって、各学校の教育目標達成につながる道徳教育の目標を設定することが必要になる。さらに、道徳教育の目標を含め、学校における道徳教育の基本的な方針や、その目標を達成するための具体的な方策を、総合的に示す教育計画が必要になる。この教育計画が「全体計画」である。

全体計画の作成に関しては、「小学校学習指導要領解説総則編」²に次のように示されている。

なお、道徳教育の全体計画の作成に当たっては、児童や学校、地域の実態を考慮して、学校の道徳教育の重点目標を設定するとともに、道徳科の指導方針、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容との関連を踏まえた各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示すこと。

道徳教育の全体計画については、「児童や学校、地域の実態」を明らかにし、「学校の道徳教育の重点目標の設定」、「道徳科の指導方針」、「道徳科との関連を踏まえた各教科、各領域における指導の内容及び時期」、「家庭や地域社会との連携の方法」を示し、作成することが求められる。

全体計画の意義については、「小学校学習指導要領解説総則編」に示された5点³を以下の表2にまとめる。

表2 道徳教育の全体計画の意義

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> (1) 人格の形成及び国家、社会の形成者として必要な資質の育成を図る場として学校の特色や実態及び課題に即した道徳教育が展開できる。 (2) 学校における道徳教育の重点目標を明確にして推進することができる。 (3) 道徳教育の要としての道徳科の位置付けや役割が明確になる。 (4) 全教師による一貫性のある道徳教育が組織的に展開できる。 (5) 家庭や地域社会との連携を深め、保護者や地域の人々の積極的な参加や協力を可能にする。 |
|---|

道徳教育は、学校の教育活動全体で行うものであるため、全教師に共通理解を図る必要がある。そこで大切になることが、どのような目的や目標を設定し、それを全教師にどのように理解させていくのかということである。そのために、学校の全教師の拠り所となる全体計画の作成が求められる。全体計画が理念だけに留まるのではなく、日常の教育活動や具体的な指導に生かすことができるように、評価や改善についての必要事項における共通理解を図っておくことが必要である。例として、次頁にA小学校における全体計画(図1)を示す。

図1に示した全体計画には、「各教科、各領域の指導方針」について示されている一方、「道徳科との関連を踏まえた各教科、各領域における指導の内容及び時期」については示されていないことが分かる。指導の内容及び時期については、「全体計画別業」に示されていることを付け加える。



図1 A小学校の全体計画（平成27年度）

Ⅲ 全体計画別葉の作成

1 全体計画別葉とは

全体計画については、学習指導要領に意義や作成の留意点等が示されている。一方で、全体計画別葉については、学習指導要領に具体的な明記はない。ただし、「小学校学習指導要領解説総則編」に、全体計画を一覧表にして示す場合の例として、次のように示されている。⁴

例えば、各教科等における道德教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの、道德教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの、道德教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを別葉にして加えるなどして、年間を通して具体的に活用しやすいものとするのが考えられる。

つまり、別葉とは、各学校の年間の教育活動を表すものであり、主に「各教科等における道德教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの」であることがいえる。これは、全学年というわけではなく、各学年で示すことで、その学年における道德教育をどのように展開すべきかを示すものになっている。

また、上記に示した別葉に関する内容からも分かるように、全体計画別葉に関しては、意義が示されているわけではなく、必ずしも作成しなければならないというわけでもない。ただし、道德科を要とした道德教育を学校の教育活動全体で展開していくために、全体計画別葉が必要であると考えられる。なぜなら、道德教育を実践する際に、全体計画だけでは具体的な指導の内容及び時期が不明確であるためである。年間を通して活用しやすい全体計画別葉があることで、道德教育を実践しやすくするという効果があると考えられる。

一方で、年間の教育活動を示し、それを6学年分作成することの大変さが大きな課題であると考えられる。全体計画については作成の義務があるため、各学校で作成されていることと考えられるが、全体計画別葉に関しては作成されているかどうか判断することは難しいと考える。

そこで、全体計画別葉の効果とその作成方法について論じる。

2 全体計画別葉の効果

全体計画別葉の効果は、どの教師も年間を通して道德教育を実践しやすくなるということである。では、具体的にどのように実践しやすくなるのかということについて論じる。道德教育の全体計画別葉例を以下の図2にまとめた。第5学年の前期に関わる指導の内容及び時期について、筆者が作成したものである。

月	4月	5月	6月	7月	8・9月
学年にかかわる学校行事	始業式 着任式 入学式	運動会 健康診断	避難訓練 読書月間	宿泊行事 道徳授業公開 終業式	始業式 体力テスト マラソン大会
月の生活目標					
特別活動・学級活動	○学級のめあてと学級名を考えよう C-(16) ○個人のめあてを考えよう A-(3) ○前期の係と当番を決めよう C-(14) ○5年生になって A-(5)	○給食のマナー C-(12) ○自分の体を知ろう A-(3) ○運動会に向けて A-(5)	○係の仕事を見直そう C-(14) ○宿泊行事に向けて C-(12)	○学級集会の計画 C-(16) ○学級集会 C-(16) ○夏休みのくらし A-(3)	○生活のリズムを見直そう ○前期を振り返ろう
道徳科	○(教材名) A-(5)希望と勇氣 ○(教材名) B-(9)礼儀 ○(教材名) A-(1)自由と責任	○(教材名) B-(10)友情, 信頼 ○(教材名) A-(3)節度, 節制 ○(教材名) A-(5)努力と強い意志 ○(教材名) C-(16)	○(教材名) A-(6)真理の探究 ○(教材名) D-(21)感動, 畏敬の念 ○(教材名) C-(12)規則の尊重 ○(教材名) D-(19)生命の尊さ	○(教材名) D-(20)自然愛護 ○(教材名) C-(15)家族愛, 家庭生活の充実	○(教材名) C-(17)郷土愛 ○(教材名) B-(7)親切, 思いやり ○(教材名) C-(13)公正, 公平, 社会正義 ○(教材名) A-(5)希望と勇氣
国語	○だいたいぶ だいたいぶ C-(15) ○図書館へ行こう C-(12) ○動物の体と気候 D-(20)	○意見と理由を開き取ろう B-(10) B-(11) ○世界でいちばんやかましい音 D-(21)	○新聞記事を読み比べよう B-(11)	○立場を決めて討論をしよう B-(11)	○紙風船 D-(21) ○水のこころ B-(7) ○資料を生かして考えたことを書こう A-(6)
書写	○姿勢と筆記用具 ○学習の進め方 A-(3)	○組み立て方 A-(5)	○筆順と字形 C-(12)	○知っておきたいいろいろな書き方 C-(12)	○点画のつながり ○こう筆を広げよう A-(5)
社会	○私たちの国土とくらし C-(17) C-(18)	○私たちの国土とくらし C-(17) D-(20)	○食料生産を支える人々 B-(8)	○食料生産を支える人々 C-(14) C-(18)	○工業生産を支える人々 A-(6) C-(14)
算数	○整数と小数 A-(6) C-(12)	○直方体や立方体の体積 ○比例 ○小数のかけ算 A-(6) C-(12)	○小数のわり算 A-(6) C-(12)	○合同な図形 A-(6) C-(12)	○偶数と奇数, 倍数と約数 ○分数と小数, 整数の関係 A-(6) C-(12)
理科	○天気の変化 D-(20)	○植物の発芽と成長 D-(20)	○魚のたんじょう D-(19) D-(20)	○花から実へ D-(20)	○台風と天気の変化 D-(20)
音楽	○にっぽんのうた みんなのうた C-(17)	○音の重なりとひびき B-(10) C-(16)	○アンサンブルのみりよく B-(10) C-(16)	○ひびき合いを生かして A-(6)	○にっぽんのうた みんなのうた C-(17)
図画工作	○春を感じて D-(20)	○切ったねん土の形から A-(6)	○糸のこのドライブ A-(6)	○めがせ, ローラーの達人 A-(6)	○「かくれんぼさん」をさがせ! B-(10)
体育	○体ほぐしの運動 B-(10) ○短距離走・リレー A-(5) C-(16)	○運動会に向けて A-(5) C-(16) ○リズムダンス B-(10)	○ソフトバレーボール B-(10) C-(16)	○水泳 A-(5)	○マット運動 A-(5)
家庭	○おわが家にズームイン! B-(8) C-(15)	○おいしい楽しい調理の力 A-(3) C-(15)	○ひと針に心をこめて A-(6) C-(15)	○食べて元気! ご飯とみそ汁 B-(8) C-(15)	○めがせう買物名人 A-(1) A-(3)
英語	○Hello! B-(8) D-(18)	○I'm happy. B-(8) D-(18)	○How many? A-(6) D-(18)	○I like apples. B-(10) D-(18)	○What do you like? B-(10) D-(18)
総合的な学習の時間	○お米を作ってみよう C-(17) D-(19)	○お米を作ってみよう C-(17) D-(19)	○お米を作ってみよう D-(19)	○お米を作ってみよう D-(19)	○お米を作ってみよう C-(17) D-(19)

図2 全体計画別葉・第5学年前期(例)(杉浦作成)

校長の方針の下で「自己実現と向上心の意識を高める」という道徳教育の重点目標が設定された場合、内容項目A-(5)「希望と勇氣, 努力と強い意志」に関する道徳科の授業を複数回行うように計画する。さらに、各教科、各領域の指導において、内容項目A-(5)「希望と勇氣, 努力と強い意志」との関連が深い単元や題材の指導する時期についても、道徳科の授

業と同時期に計画し、年間指導計画に位置付ける。このように計画し、全体計画別葉を作成する効果は5点ある。

まず1点目に、各教科、各領域の指導の際に、取り扱う道徳的価値について考える機会が得られにくい場合に、道徳科の授業で補うことができる。これは、従来の学習指導要領で示されていた「補充」である。

2点目に、各教科、各領域の指導の際に、取り扱う道徳的価値の意味などについて考えを深めることができなかつた場合に、道徳科の授業でより一層考えを深めることができる。これは、従来の学習指導要領で示されていた「深化」である。

3点目に、各教科、各領域における道徳教育の中で多様な体験を、道徳的価値の相互の関連として捉え直したり、発展させたりすることで、子どもに新たな感じ方や考え方を生み出すことができる。これは、従来の学習指導要領で示されていた、「統合」である。

4点目に、道徳科で理解し考えを深めた道徳的価値について、各教科、各領域で実践することが可能である。教室掲示に「道徳コーナー」を設け、学んだ道徳的価値を振り返るだけでなく、道徳的実践が見られた場合は「道徳コーナー」を活用し、道徳的価値の理解をさらに深めることもできる。

5点目に、教師が道徳科の授業計画を立てる際に、各教科、各領域で取り扱った内容項目を確認し、「自己を見つめる」活動を構想しやすくなる。

以上、全体計画別葉による主な効果5点について論じた。この効果とともに、年間を見通した道徳教育を展開する計画案として、全体計画別葉を作成する意義が高いといえる。一方で、これを作成するためには、多くの労力と時間を要する。業務が増えている教職員の負担になることを考慮した場合、作成方法に工夫が必要である。全体計画別葉の効果的な作成方法について論じる。

3 全体計画別葉の効果的な作成方法

全体計画別葉があることで、道徳科を要とした補充、深化、統合を図った道徳教育を展開することが、道徳教育の質の向上につながるということがいえる。では、全体計画別葉をどのように作成するとよいのだろうか。昨今の学校現場は、業務増に伴い、現状の教育活動の質を低下させないことを前提とした、教職員の業務改善が求められている。現在の学校現場で、新たに全体計画別葉を作成することは現実的に困難な状況であるといえる。他校や既存の全体計画別葉を活用するという考え方もあるだろうが、本来道徳教育は、各学校が独自の教育活動を展開するという趣旨がある。児童や学校、地域の実態を考慮した道徳教育を展開することが求められている以上、他校と同じ全体計画別葉を活用することは不可能である。そこで、学校独自で全体計画別葉を作成するための効果的な方法を提案したい。

全体計画別葉作成における基本的な方針は、1年間を通して作成するという考え方である。一般的には、年度当初には作成されていることが望ましいが、現在の学校現場の業務状況を考

慮した場合、それは現実的ではないといえる。そこで、道徳科における年間指導計画は年度当初に作成し、それを下に道徳科の授業を実践していくとともに、各教科、各領域について実践後、つまり単元・題材終了後に、空欄の全体計画別葉に記入していくという方法を提案する。単元・題材終了後に、単元名・題材名とともに、関連する内容項目を記入していくのである。この作成方法の具体例を図3に示す。

月	4月	5月	6月	7月	8・9月
学年にかかわる学校行事	始業式 着任式 入学式	運動会 健康診断	避難訓練 読書月間	宿泊行事 道徳授業公開 終業式	始業式 体力テスト マラソン大会
月の生活目標					
特別活動・学級活動	○学級のためてと学級名を考えよう C-(16) ○5年生になって A-(5)				
道徳科	○(教材名) A-(5)希望と勇氣 ○(教材名) B-(9)礼儀 ○(教材名) A-(1)自由と責任	○(教材名) B-(10)友情、信頼 ○(教材名) A-(3)節度、節制 ○(教材名) A-(5)努力と強い意志 ○(教材名) C-(16)	○(教材名) A-(6)真理の探究 ○(教材名) D-(21)感動、畏敬の念 ○(教材名) C-(12)規則の尊重 ○(教材名) D-(19)生命の尊さ	○(教材名) D-(20)自然愛護 ○(教材名) C-(15)家族愛、家庭生活の充実	○(教材名) C-(17)郷土愛 ○(教材名) B-(7)親切、思いやり ○(教材名) C-(13)公正、公平、社会正義 ○(教材名) A-(5)希望と勇氣
国語	○だじょうぶ だじょうぶ C-(15)				
書写					
社会	○私たちの国土とくらし C-(17) C-(18)				
算数	○整数と小数 A-(6) C-(12)				
理科	○天気の変化 D-(20)				
音楽	○にっぽんのうた みんなのうた C-(17)				
図画工作	○春を感じて D-(20)				
体育	○体ほぐしの運動 B-(10)				
家庭	○わが家にズームイン! B-(8) C-(15)				
英語	○Hello! B-(8) D-(18)				
総合的な学習の時間	○お米を作ってみよう C-(17) D-(19)				

図3 第5学年における全体計画別葉（前期分）作成の例（杉浦作成）

図3に具体的な例を示したように、各学年の学級担任が単元・題材終了後に記入し、全体計

画別葉の空欄を埋めていく作業を、1年間を通して進めていく。この全体計画別葉表を、職員室に掲示し、全教職員がそれを目にすることができるようにすることで、作業の進行状況を周知できるとともに、記入漏れについて防止できると考える。1年間は、全体計画別葉がないという中での道徳教育の展開になってしまうという課題はあるが、現在の学校現場の業務状況を考慮した場合には、実用的かつ効果的な作成方法であると考えます。

また、1年間を通して作成した全体計画別葉を次年度活用し、さらに単元・題材における内容項目の追加・修正を朱書きするなど、評価・改善を図っていくことが可能である。そこで、道徳教育における全体計画と全体計画別葉については、常に教職員の目に入る職員室に掲示しておくことを推奨する。

Ⅳ まとめ

本稿は、教育課程を中心に据えて、組織的・計画的に各学校の教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントに関して、道徳教育の視点から考察し、道徳教育の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの在り方について考察した。具体的には、道徳教育の目標を設定し、その目標を達成するための方針や手立てを示す、道徳教育における「全体計画」や「全体計画別葉」の活用の意義について考察し、道徳教育におけるカリキュラム・マネジメントの実現につなげていくとともに、「全体計画別葉」の効果的な作成方法についても明らかにした。カリキュラム・マネジメントの推進を図るためには、計画した内容に関する実践・評価・改善についても考察する必要がある。ただし、カリキュラム・マネジメントは、どのような目的や目標を設定するのかということが、その推進や実現につながるものである。つまり、本稿で取り上げた「全体計画」や「全体計画別葉」について考察することは、カリキュラム・マネジメントの実現にとって最も重要な視点であると考えます。「全体計画」や「全体計画別葉」の活用により、道徳教育の質の向上を図ることに有効であることを明らかにすることができたと考える。

今後、カリキュラム・マネジメントの実現により、各学校の学習効果の最大化が図られるとともに、教育の質の向上が図られていくものと推測する。その中で、今年度より先行実施されている道徳科、そして道徳教育の充実により、道徳性の育成に加え、様々な効果が期待できると考える。

評価・改善の視点についても研究を深めていき、さらなるカリキュラム・マネジメントの確立を目指し、道徳教育の質の向上に寄与していきたいと考える。

Ⅴ 引用文献・参考文献

- ¹ 文部科学省（2018）「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編」東洋館出版社 pp39-40

² 文部科学省（2018）前掲書 p.129

³ 文部科学省（2018）前掲書 p.130

⁴ 文部科学省（2018）前掲書 p.131

○永田繁雄（2016）「平成28年版小学校新学習指導要領の展開 特別の教科 道徳編」明治図書

○永田繁雄（2017）「平成29年版小学校新学習指導要領ポイント総整理 特別の教科 道徳」東洋館出版社

○永田繁雄（2017）「『道徳科』評価の考え方・進め方」教育開発研究所

○押谷由夫（2018）「平成29年改訂小学校教育課程実践講座 特別の教科 道徳」ぎょうせい

○赤堀博行（2016）「これからの道徳教育と『道徳科』の展望」東洋館出版社

○赤堀博行（2017）「『特別の教科 道徳』で大切なこと」東洋館出版社

○日本道徳教育学会「道徳と教育」2017年335号（2017）日本道徳教育学会事務局

○日本道徳教育学会「道徳と教育」2018年336号（2018）日本道徳教育学会事務局